

みどりごの寝息は深くゆるやかな時間に融けてゆく
我は母 平山志保

赤ちゃんを寝かしつけた時の、ほっとした時間をう
たっているのだろう。「……時間に融けてゆく 我は母」
と、下句七・七を九・五の句割れのかたちにして成功。

眠そうな生徒しきりに水飲んで生身の人としてここ
に在り 廣間菜月

「……生身の人としてここに在り」が、うまい。教壇
から見ると、他の生徒はみな生徒として席にいるのに、
一人だけ喉が渴いた生身の人間として席にいる、という
のだ。ペットボトルか水筒の水を何度も飲んでるのだ
ろう。塾のアルバイトか教育実習か。どちらかのようにだ。

敵陣の間隙を突きパス通るひと筆書きに星を描くご
と 谷ちえみ

サッカーの試合を見に行った思い出をうたう中の一
首。何人かの間を素早くパスがまわる時のイメージを表
現した下句の表現、リアリティがある。

子と共に空を仰げば宇宙にも動物園と水族館あり
田中章義

下句、「大蟻食と青海亀おり」のように動物の種類で
はなく、動物園と水族館という多種類の集合体をもって
きたことで、子との会話の内容まで読者は読むことがで
きる。

家々がうつすら雪を被りいて赤いトラックゆっくり
通る 望月裕子

当たり前の何でもない風景だけれど、めずらしく少し

雪が降ったので、急に新鮮に見えたのだ。雪国ではない
都会ならではの雪の歌。

すいすいとマッケローニは滑りゆく樹脂製フォーク
に食はむとすれば 佐竹紀明

マカロニ料理に樹脂製フォークを使ったらすべてし
まった、というどうでもいいような内容ながら、「マカ
ロニ」ではなく「マッケローニ」なので、読者は「お
やつ？」と思わせられる。「マッケローニ」はイタリア
語「マッケローネ」の複数形。

誰しもが重たきものを背負いながら顔を歪めるジムの
人達 神戸貴雅

突き放した表現でスポーツジムをうたった珍しい歌。
ウエイトトレーニングに励む人たちを、顔を歪めて重い
ものを背負う、という一面だけに光を当てた不思議さ。

見えぬ日と見える日のあり西向きの窓の向かうの高
千穂の峰 増田満美子

転居を題材にした一連の中で、これは新しい家に関す
る作。曇りや雨の日は、山が見えないのは当然だから、
ふつうは西向きの窓から高千穂が見えるだけというは
ず。そこをあえて表現した第一・二句に、新しい家への
好奇心を読みたい。

わらひころげ写る妹 六年を遅れて老いは来るとい
ふのか 経塚朋子

六歳年下の妹さんの写真の若々しさをクローズアップ
した作。第三句以下を疑問形にすることで、妹の現在の
若さを照らし出している。